http://www.gerodontology.jp/
日本老年歯科医学会 Facebook
日本老年歯科医学会 Twitter

本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は，本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製，その利用等は，目的の如何および個人利用を問わず，本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。

Japanese Society of Gerodontology 1986

News Letter

No.50

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2022年12月31日発行

【本号のトピックス】

ニュースレター発行50号を迎えて／第34回学術大会演題締切迫る！
第12回IAGG アジア/オセアニア国際老年学会議案内／理事会開催報告
委員会だより／支部長会報告／研修会報告／専門医活動レポート　他

ニュースレター発行 50 号を迎えて

広報委員会委員長　河相安彦

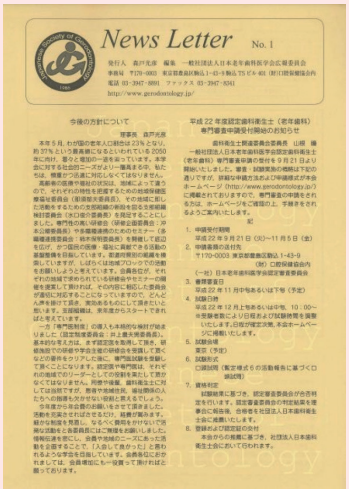
ニュースレターは，13 年前，2010 年の 9 月 30 日の発行が第 1 号となります。2010 年は鳩山内閣が総辞職し，菅　直人首相が任命された年で，東日本大震災が 3 月に起こる前の年になります。巻頭には発行時の森戸光彦理事長の将来戦略が記されており，今でも重要事項である，支部組織と専門医制度の施行について触れられています。また，本会の多様性を示すように，認定歯科衛生士の審査への協力の開始が掲載されています。第 4 号では 2011 年 6 月の学術大会のシンポジウムのレポート記事から「歯科訪問診療を考える」「協働ー歯科衛生士の活躍の場ー」「総合病院での歯科の役割」などが取り上げられ，現在の本会活動に繋がるマイルストーンとなっています。

当時の，川良美佐雄広報委員会委員長は編集後記でニュースレターを「老年歯科の多領域，多職種の方々との連携が必要であり，情報交換・交流の場として，各地域での催しや呼びかけなどのお知らせとしての活用」という主旨を記しています。ニュースレターは今も Public との関係性を意識し，多様な方を対象とした情報発信ツールとして継続しているところです。一方，改めてバックナンバーを見渡すと，当時の学会の方向性や，熱い思いなどが記されており，時を経てそれらを振り返ることで，学会事業の検証と今後の学会運営の手掛かりをつかむ，重要な資料となっていることにも気づかされます。折に触れ，会員の皆様もホームページ（https://www.gerodontology.jp/about/newsletter.shtml）にあるバックナンバーをご高覧いただき，過去の記事を振り返り，今を見つめていただければ幸いです。

広報委員会では，ニュースレターのほかにも，ホームページ，SNS，メールマガジンなど多様な手段で，Public との繋がりを模索していますが，50 号発行の機会に，新たなニュースレターの位置付けを再確認し，継続していきます。

バックナンバー

バックナンバー一覧



記念すべき第1号

一般社団法人日本老年歯科医学会
第 34 回学術大会のご案内　#JSG23

大会長　菊谷　武
（日本歯科大学口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長・教授）

このニュースレターがお手元に届く頃には，学術大会まであと５カ月ほどになっていると思います。感染状況も落ち着いていることを願ってやみません。さて，演題登録期限についてですが，**1月31日（火）**正午と迫っております。演題のカテゴリーを登録しやすく変更しておりますので，奮ってのご応募をお願いいたします。

今回，学会ポスターを同封させていただきました。老年歯科医学の分野は，訪問診療，認知症患者の歯科治療，多職種連携，終末期口腔管理，口腔健康管理などと多岐にわたります。一方で，この分野の急成長に対してこの分野を担う歯科医師の育成や教育が追いついていないのを実感しています。ポスターでは，表紙を飾る若者たちがこの分野に挑んでほしいという願いを込めてあります。

本学術大会は，この分野を担う先生方に向けて魅力あるプログラムになっております。ぜひともお誘い合わせのうえ会場にお越しください。

＜懇親会について＞

今学術大会では，懇親会を準備しております。みなとみらいの美しい夜景と海を眺めながら，屋外でのBBQ を楽しんでいただきます！炎を囲みながら未来の老年歯科医療について語り合いましょう。

日程：2023年6月17日（土）
会場：ドリームドア　ヨコハマハンマーヘッド
https://yokohama.dreamdoor.jp/

第 12 回 IAGG アジア / オセアニア国際老年学会議
(IAGG-Asia Oceania Regional Congress 2023)のご案内

2023 年 6 月に第 12 回アジア / オセアニア国際老年学会議が横浜で開催されます。

最長寿国として高齢者医療制度，介護保険制度，認知症施策推進大綱などを世界に先駆けて整備し，先端テクノロジーの高齢者医療，福祉，住まい，移動への応用も盛んなわが国の現状と今後急速に高齢化が進むアジアオセアニア各国と比較議論し，未来構想を互いに描く絶好の機会と考えております。

フレイル研究は，看護，リハビリ，栄養，介護の専門職が，共通のプラットフォーム上で集学的・学際的に集う老年学の象徴的な場となっています。特に，オーラルフレイルは，本邦発の世界に誇れる画期的な概念としてフレイル研究のなかでも注目され，医科歯科連携のキーワードとなってきています。

会議では，世界の一流科学者の特別講演を予定するほかにも，歯科や口腔機能に関するシンポジウムも複数用意しております。ほかにも目が離せないプログラムをいろいろと準備しております。皆様の参加を心からお待ちしております。

【開催概要】

日　程：2023 年 6 月 12 日（月）～15 日（木）（4 日間）
会　場：パシフィコ横浜　ノース
会　長：鳥羽研二先生（東京都健康長寿医療センター）
テーマ：For Enhanced Wellbeing in Later Life through Innovation and Wisdom Sharing
大会 HP URL：https://www.iagg2023.org/
大会 HP QR コード：

参加登録期間：

（事前）2022年9月中旬頃～2023年2月28日（火）
（スタンダード）2023年3月1日（水）～6月11日（日）
（当日オンサイト/オンライン）2023年6月12日（月）～6月15日（木）

※登録期間により金額が変わりますのでご確認ください。
参加登録ページ：
https://www.iagg2023.org/jp/registration_jp.html
※本学会会員は，割引料金になります。

理事会開催報告

理事長　水口俊介

2022年12月9日に本会2022年度第10回の理事会が開催されました。27名の理事，2名の監事，19名の幹事，2名の名誉会員の先生にご出席いただきました。

2022年実施の事業はもとより，2023年に実施される事業も細かく議論がなされました。なんとか予定の時刻に終了できたのは出席者の皆様のご協力のおかげです。

2023年も本会の事業によろしくご協力いただきますようお願い申し上げます。

理事･監事･幹事･名誉会員の先生方

委員会だより

学術用語委員会

委員長　大神浩一郎

老年歯科医学は基礎から臨床，生命科学から社会科学まで，保健･医療･福祉の幅広い分野にわたる学術的な研究領域であります。そのため学術用語も多岐にわたります。本委員会は，老年歯科医学学術用語の解説･整理と選択の指針を提示することを目的に活動しています。

現在，2023年3月の『老年歯科医学用語辞典』改訂第3版の出版に向けて，戮力協心して最終作業を進めています。改訂第3版では，第2版に収載された用語の再整理，収載される用語の解説確認･修正を行いつつ，本書の充実を図るべく新たな用語を選定し，その解説を理事，代議員，学術用語委員の方々にご執筆いただきました。改訂第3版は，約100語の新たな専門用語に英文表記と学術的解説を加えて，1,150語を収載した辞典となりました。本書は2022年度まで年会費を完納された会員には寄贈いたします。

委員会では，改訂第3版の出版後も日々進歩する老年歯科医学に対応するために，新しく生まれる用語，あるいは変化する用語に常に対応していきます。新出用語につきましては，用語の解説を学会誌に掲載予定です。また学術用語でぜひ付け加える必要があると思われるもの，あるいは今回掲載された用語の解説で加筆･修正が必要と考えられるものにつきまして，会員の皆様からもご意見を頂戴したいと考えております。

ご意見を寄せられた用語については学術用語委員会で慎重に検討させていただき，次回の改訂時の参考にさせていただきます。会員の皆様のご意見をお待ちしております。

地域包括ケア委員会

委員長　岩佐康行

＜地域包括ケアシステムにおいて歯科が活躍する事例を扱った学術大会発表一覧活用のご案内＞

前身の多職種連携委員会より取り組んでまいりました，会員が地域における多職種連携に向けて「はじめの一歩を踏み出す」ための参考となる過去の学会発表の整理が完了し，このたび，本会ホームページで公表されました。

団塊の世代が全員 75 歳以上となる 2025 年を目途として，地域包括ケアシステムの構築が進められています。皆様の地域でも，歯科医師会が行政や医師会などの諸団体とさまざまな連携事業を行っていると思います。

このようにシステム（形）が整いつつある一方で，現場に出て活躍する歯科医師・歯科衛生士が不足しているとの話もよく聞かれます。どうぞ会員の皆様の活動に活かしていただけますと幸いです。

発表年	演題名（抄録リンク）	主体	内容	関わった主な職種	注目ポイント
30th大会 2019年	骨粗鬆症管理とオーラルフレイル予防の両面からみた医科歯科連携の課題	医師	医科歯科連携		医師から，MRONJを例にした医科歯科連携への提言
31st大会 2020年	全身疾患を伴う重度歯周炎による咀嚼障害に対して補綴治療を行った症例	歯科医師	医科歯科連携	内科医師	糖尿病と高血圧の既往がある患者のインプラント除去にあたって医科と連携 医科歯科共同で栄養支援
31st大会 2020年	義歯適合不良による歯科来院が下咽頭癌の早期発見につながった症例	歯科医師	医科歯科連携	耳鼻咽喉科医師	連携により下咽癌を早期発見 口腔機能精密検査

学会HPより

介護施設での口腔衛生管理や認知症対応についての議論
～2022 年度支部長会～

支部運営委員会委員　佐々木　健

今年度の支部長会は第 33 回学術大会最終日に開催されました。対面での開催は 3 年ぶり（Web 併用）でした。今回は 2 人の支部長の話題提供を題材に全体で討議しました。まず清水　潤先生（島根）から，施設系の介護報酬の口腔衛生管理体制加算が 2021 年 4 月改定で廃止となり基本サービスとして包括化されたことに伴い，未算定であった施設を中心に，猶予期間終了の 2024 年 3 月までに管理を委ねる歯科専門職を確保することが課題となっていることが指摘されました。学会には施設と管理を担える歯科専門職とのマッチングが円滑に進むようサポートを期待するとともに，歯科専門職にしっかり取り組んでもらうためには，歯科側でも報酬を算定できる仕組みが望ましく，次期改定に向けロビー活動などを期待する発表がありました。次に米山武義先生（静岡）は，認知症にフォーカスし，学会には，口腔機能と認知機能の関連性を国民に啓発することを通じて歯科口腔保健の意義を唱導することや，認知症や軽度認知機能障害（MCI）の方々へ会員が対応する際に役立つ情報の提供や研究成果の還元などのほか，地域差を感じる多職種連携の支援を支部を通じて行ってもらいたいという趣旨の発表がありました。現場感に溢れた具体の課題をめぐる交流となり，会場が能楽の舞台という非日常感もあって，対面の強みを実感できた集会となりました。

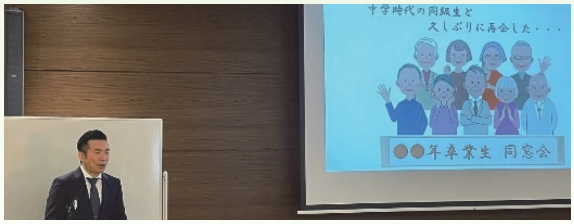
能楽堂で行われた支部長会の様子

支部だより

石川支部共催セミナー「いい歯の日お口の健康フェスティバル市民公開講座」開催報告

石川支部支部長　宮田英利

2022年11月6日(日),金沢市歯科医師会,石川県歯科医師会の共催,金沢市,石川県歯科衛生士会の後援をいただき,石川県歯科医師会館研修室よりWeb配信にて開催しました。公立能登総合病院歯科口腔外科部長の長谷剛志先生をお迎えし,「あなたの『食べる力』は大丈夫?～お口の健康と食生活の関係について～」の演題にて講演をいただきました。生理的老化と病的老化の違いやお口の老化,口腔機能の低下による咀嚼機能低下を防ぐためにかかりつけ歯科への受診を勧め,健康のための食生活を続けるには食感受容器の感度･消失させない食べる楽しみをもつことが必要であることを示していただき,食生活の乱れと糖尿病の関係や朝食の重要性を説明され,最後に口腔体操「あいうえおストレッチ」と「リップトレーニング」を実演していただきました。200名を超える視聴があり,多くの市民の皆様にみていただき,実りある市民公開講座となりました。



長谷剛志先生による講演の様子

岡山支部共催セミナー「病院歯科介護研究会第 24 回総会・学術講演会」開催報告

岡山支部支部長　角谷真一

2022年11月20日(日),岡山支部共催セミナーがWeb方式で開催され,108名の方々に参加していただきました。岡山大学の石田　衛教授による「サーバント･リーダーシップ」の基調講演後,多職種連携が必要な食支援に関して,医師,歯科医師,歯科衛生士,管理栄養士,保健師,言語聴覚士の各専門分野の先生から,多職種のリーダーとして参考となる地域における実践事例や連携に必要なスキルなど,たいへん有意義なご講演をいただきました。

石田　衛先生(左)および田中志子先生(右)による講演の様子

2022年度 オンライン Live 研修会開催報告

研修委員会委員長　渡邊　裕
同委員・幹事　奥村拓真

2022 年度の研修委員会企画の Live 研修会が 2022 年 12 月 2 日（金）19:00～20:00 に開催されました。今回は東京都健康長寿医療センター研究所，自立促進と精神保健研究チーム研究員で管理栄養士の本川佳子先生をお招きし，司会・渡邊　裕のもと「老年歯科診療で必要な栄養マネージメント」と題し，日本の栄養施策の歴史，現状から，口腔機能と栄養の関係，栄養と歯科の連携についての具体例にいたるまで，幅広い内容のご講演をいただきました（参加者数 160 名）。栄養と歯科の連携についての具体例では歯科治療上遭遇することが多い栄養リスクの問題をいくつか例示いただき，食品や栄養補助食品などでの対処法をご教示いただき，目から鱗が落ちた感じがいたしました。やはり栄養と歯科は切っても切れない関係だと今さらながら確信した次第です。

2022 年度の研修会はコロナの影響もあり，今回のオンライン Live 研修会と 2023 年 3 月 5 日（日）に予定されている第 12 回高齢者医療臨床研修会，歯科衛生士関連委員会企画の研修会が予定されています。2023 年度は対面での研修会も織り交ぜて開催できるよう努力してまいります。今後も会員の皆様にとって実りある研修会を企画開催していきたいと思っております。ご意見ご助言などございましたら，お気軽に研修委員会までご連絡ください。

本川佳子先生による講演の様子

専門医活動レポート

寺中　智先生
（足利赤十字病院リハビリテーション科）

＜当院での摂食嚥下支援チーム（SST）の取り組み＞

当院は栃木県南西部に位置する両毛圏域病床数 540 床の地域基幹病院です。当院では摂食嚥下障害の方に対して，歯科衛生士（DH），看護師（Ns），理学療法士（PT），作業療法士（OT），言語聴覚士（ST）と多職種で連携しながらこれまで摂食機能療法の算定を行ってきました。2020 年に保険収載された摂食嚥下機能回復体制加算とさらなる摂食機能療法算定を増やすべく，摂食嚥下支援チームを立ち上げました。チーム構成メンバーは歯科医師，認定 Ns，ST，薬剤師，管理栄養士で，DH や PT もオブザーバーとして参加しています。

当院全病棟での摂食機能療法対象患者の摂食状況を各職種が把握し，週 1 回の摂食嚥下支援カンファレンスにて情報共有をしています。さらにこのカンファレンスでは，対象患者の嚥下内視鏡による再評価の検討も行い，主治医とも連携して安全な経口摂取方法を模索しております。本チームを立ち上げて，改めてチーム医療の醍醐味を感じています。それは，チームでは歯科医療知識だけでなく，患者の全身状態，栄養状態，リハビリ状況，薬剤など横断的な医療知識を総合的に判断するスキルが必要であり，これは多職種の専門知識なしには遂行できないからです。このようなチームが院内には多数あり，そのなかで歯科医師が多職種連携する意義が求められていると感じております。

摂食嚥下支援チームカンファレンス

学 会 だ よ り

「4学会合同のフッ化物配合歯磨剤の推奨される利用方法」が公表されました

日本の子どものう蝕は経年的に減少傾向にありますが，成人では約 3 人に 1 人が未処置う蝕を有し，高齢者ではう蝕経験者は増加しています。

フッ化物応用の研究のアップデートや，市販歯磨剤のフッ化物濃度の変更，国際的な推奨の更新を受け，日本のう蝕予防および治療を専門とする 4 学会合同（日本口腔衛生学会，日本小児歯科学会，日本歯科保存学会）で，現在のわが国における推奨されるフッ化物配合歯磨剤の利用方法をまとめました。

学会ホームページに公表しましたので，ぜひご覧ください。

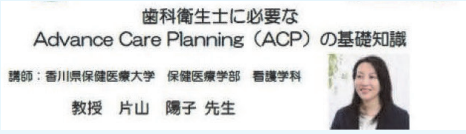
年齢	使用量（写真は約2cmの歯ブラシ[2]）	フッ化物濃度	使用方法
歯が生えてから2歳	米粒程度（1~2mm 程度）	1000 ppmF（日本の製品を踏まえ 900~1000 ppmF）	・就寝前を含めて1日2回の歯みがきを行う。 ・1000 ppmF の歯磨剤をごく少量使用する。歯みがきの後にティッシュなどで歯磨剤を軽く拭き取ってもよい。 ・歯磨剤は子どもの手が届かない所に保管する。 ・歯みがきについて専門家のアドバイスを受ける。
3~5歳	グリーンピース程度（5mm 程度）	1000 ppmF（日本の製品を踏まえ 900~1000 ppmF）	・就寝前を含めて1日2回の歯みがきを行う。 ・歯みがきの後は、歯磨剤を軽くはき出す。うがいをする場合は少量の水で1回のみとする。 ・子どもが歯ブラシに適切な量をつけられない場合は保護者が歯磨剤を出す。
6歳~成人・高齢者	歯ブラシ全体（1.5cm~2cm 程度）	1500 ppmF（日本の製品を踏まえ 1400~1500 ppmF）	・就寝前を含めて1日2回の歯みがきを行う。 ・歯みがきの後は、歯磨剤を軽くはき出す。うがいをする場合は少量の水で1回のみとする。 ・チタン製歯科材料が使用されていても、歯がある場合はフッ化物配合歯磨剤を使用する。

研修会・セミナーのご案内

※詳細は学会 HP をご覧ください

オンライン歯科衛生士セミナー（第 11 回歯科衛生士関連委員会主催セミナー）

日　時：2023 年 2 月 23 日（木・祝）9:30～10:30
　　Web 配信（Zoom）
テーマ：歯科衛生士に必要な Advance Care Planning（ACP）の基礎知識
講　師：片山陽子先生（香川県保健医療大学保健医療学部看護学科 教授）



令和 4 年度 群馬支部主催研修セミナー

日　時：2023 年 2 月 11 日（土）13:30～15:30（予定）
会　場：群馬県歯科医師会館　4 階第 2 会議室
テーマ：超高齢社会の補綴戦略（認知症と欠損補綴）

三重支部共催セミナー「東海オーラルマネジメント研究会」

日　時：2023 年 2 月 26 日（日）9:30～12:40（予定）
会　場：ウインクあいち小ホールおよび Zoom ウェビナーによる Web 開催
テーマ：嚥下障害へのアプローチの多面性について考える!

第 12 回高齢者医療 臨床研修会

日　時：2023 年 3 月 5 日（日）10:00～11:00
　　Web 配信（Zoom）
テーマ：老年歯科診療で知っておくべき糖尿病の病態と管理について
講　師：藤田寛子先生（東京都立多摩北部医療センター内分泌・代謝内科 部長）

九州地域支部セミナー「第 4 回 九州老年歯科フォーラム in 大分」

日　時：2023 年 3 月 12 日（日）9:00～13:30（予定）
会　場：大分県歯科医師会館および Zoom Webinar
テーマ：地域を診守る役割分担

神奈川支部主催セミナー

日　時：2023 年 3 月 26 日（日）9:30～16:00
会　場：神奈川歯科大学附属病院大講堂（12F）
テーマ：これからの歯科治療と栄養指導が国民の健康を向上させる～ここから，“協働”でスタートしてみましょう!～

各支部セミナーの詳細はこちらからご覧いただけます

編集後記

今回のニュースレターの記事をみますと，セミナー，学会活動の多くは現在もオンライン形式の開催となっており，この形式での開催が「通常」となってきました。一方，学術大会はハイブリッド形式にて開催されており，対面形式による会員同士における学会場での交流は新たな学術的発展を生むきっかけになると思います。広報委員会はそのきっかけの一助となるよう，現在新たな企画を立案中でございます。

（飯田　崇）

発行人　水口俊介
編　集　（一社）日本老年歯科医学会広報委員会
事務局　〒170-0003　東京都豊島区駒込1-43-9
　　駒込TSビル　（一財）口腔保健協会内
E-mail　gakkai30@kokuhoken.or.jp